

論文

保育者養成校における音楽表現活動からの学び
—アクティブ・ラーニングから協働へ—

古根川 円*1

キーワード：主体的、対話的、協働性、授業デザイン、ファシリテーター

1 はじめに

保育者養成校で実施されている音楽表現活動は平成22年7月に実施された「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の一部改正に伴って保育実技科目の名称が「保育表現技術」と変更された。新名称のもとに従来の基礎技能の内容である音楽、造形、体育を、音楽表現、造形表現、身体表現とし、これらの表現技術を保育との関連で修得することが求められている。つまり教科目標である「子どもの表現を広く捉え、子ども自らの経験や周囲の環境との関わりを様々な表現活動や遊びを通して展開していくことが重要である」¹⁾を踏まえ、保育現場を想定した授業展開が求められている。本学の子ども生活学専攻で学ぶ学生は、保育士と幼稚園教諭免許、保育士と社会福祉士資格などを取得し、広範囲の子どもたちと関わることを想定して各々学びを深めている。本研究は音楽表現をさらに深めるために開講した「子どもの歌」という授業で行った、オペレッタの制作活動及び発表までの過程における学生の意識の変化を調査し分析を行った。

この授業は保育現場で活かされることを念頭に次の2点を指導目標に置いた。1点目は教員が教えるのではなく学生が主体的に取り組むアクティブ・ラーニングとしての意識をもつこと。つまり学生の表現力・技術力の向上や豊かな感性を育むことを目指すとともに、領域「表現」の目標である「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」²⁾を踏まえ子

どもの表現や豊かな感性を支える保育に結びつくことを目指して行った。学修方法としては学生たちが主体的に取り組み、グループワークを中心に能動的学修(アクティブ・ラーニング)が行えるよう、教員はきっかけづくりとなるファシリテーター的存在になることに留意した。

2点目は活動を通して協働性を高めること。つまり保育現場での活動は、子どもたちの集団で行われることが多い。みんなで協力して臨むという姿勢は子どもに限らず、職員間でも重要視されている。保育所保育指針では「保育所全体の保育の質の向上を図るため、職員一人一人が、保育実践や研修などを通じて保育の専門性などを高めるとともに、保育実践や保育の内容に関する職員の共通理解を図り、協働性を高めていくこと」³⁾と明記されている。以上の2点は保育者として欠かせない資質の一部である。オペレッタの制作、練習・発表過程を通じて、学生が人と関わり合いながら習得していく学びを調査した。

2 授業の概要と展開方法

2.1 授業受講者

科目名：子どもの歌 I

授業区分：子ども生活学専攻専門教育科目

受講学生：保育士資格、幼稚園教諭第一種免許取得を目指す10名(男子5名：女子5名)

実施期間：2016年4月～2016年8月

90分×15回のうち6～15回目 計10回

*1 至誠館大学 ライフデザイン学部

選曲：いっしょに歌おう！エリック・カール絵本うた

「はらぺこあおむし」⁴⁾

原作：エリック・カール

訳詞：もりひさし

作曲：新沢としひこ

編曲：中村暢之

ピアノ用編曲：湯川 徹

参考絵本：はらぺこあおむし

エリック＝カール 作

もり ひさし 訳

2.2 オペレッタ導入のねらい

オペレッタを簡単に説明すると「話し言葉による対話、歌、舞踊を伴った軽いオペラ」⁵⁾である。英語圏の国々ではオペレッタがミュージカルに発展した。本授業の「子どもの歌Ⅰ」は保育者として子どもの歌を沢山知り、歌うことができることを到達目標として開講された授業である。オペレッタには幼児教育の表現活動である言語表現、音楽表現、身体表現がすべて包括されている。オペレッタを導入することによって、保育者を目指す学生の授業で次の4点を学修して欲しいと考えた。①歌でストーリーを展開することにより歌に自然な表現力がつくこと、②子どもたちの視点に立った振付、舞台づくりができること、③音楽や歌詞に合う身体表現を見つけること、④他者とひとつの作品を作り上げる協働性があること。つまり、音楽表現活動を総合表現活動と位置づけて取り上げた。

3 オペレッタ制作・発表を終えて学生の記録より見えてくるもの

10回の制作練習を終え、本学教員を観客とし発表会を行った後、質問紙による記述式で振り返りを行った。

(資料1)

対象学生 10名

学生の希望取得資格は全員が保育士資格を希望しており、そのうち20%ずつが幼稚園教諭と社会福祉士資格取得を目指している。(図-1)

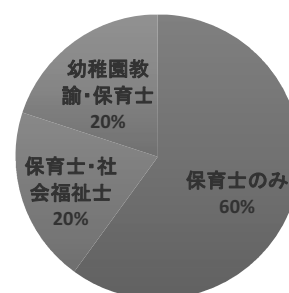


図-1 希望取得資格

質問1の今までにオペレッタを観たことがあるかの問いでは、観たことがある者は半分以下の40%であった(図-2)。

質問2の今までにオペレッタをやったことがあるかの問いでは経験者は1人のみで、今回の試みはほぼ全員が初めての挑戦であることが判った(図-3)。

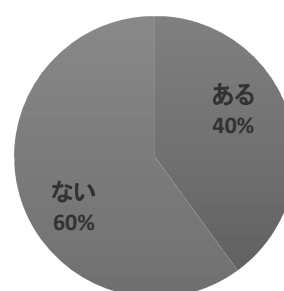


図-2 今までにオペレッタを観たことがあるか

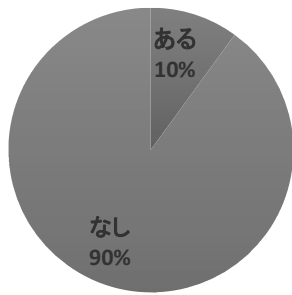


図-3 今までにオペレッタをやったことがあるか

質問3の絵本のお話を歌、動き、小道具で表現することについてどう思うかについては、観客の視点、演者の視点それぞれの立場での回答が見られた(図-4)。

問3、絵本のお話を歌・動き・小道具で表現することについて
どのように思いますか

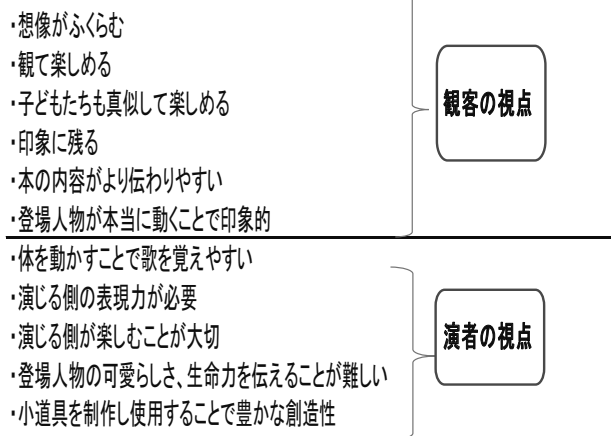


図-4 質問3の内容と回答

質問4は全体を通して工夫したと思う点を、理由を挙げて5つ以上回答してもらった。以下回答数が多い順に記述する。文末の数字は回答数を示す。

- ① いもむしがちょうちょになった羽を制作した (6)
- ② 食べ物を絵で表して視覚的にわかるようにした (5)
- ③ 手拍子、マラカスをいりリズムを入れた (5)
- ④ いもむしが食べ物を食べる仕草 (3)
- ⑤ 振付を簡略化し子どもにわかりやすくした (3)
- ⑥ 話の内容により声の大きさに変化をつけた (2)

- ⑦ 食べ物を食べた後、食べかすが床に落ちないようにした (1)
- ⑧ 2つのグループが別々の動きをしながら1つに融合していく (1)
- ⑨ フォーメーション、立ち位置を変え飽きさせない (1)
- ⑩ 個々のソロがあった後、全員で同じ動作をした (1)
- ⑪ 数を指で表した (1)
- ⑫ 言葉が伝わるように口調に気をつけた (1)
- ⑬ 歌詞に合う動きを考えた (1)
- ⑭ 一人ずつ(ソロで)演技する時のタイミング (1)
- ⑮ 廃材など低コストのもので制作し、再演するときに作りやすい形にした (1)
- ⑯ ズボン黒、Tシャツはカラフルにした (1)
- ⑰ 壁面に絵本のイメージを表現した (1)
- ⑱ 制作物を着色する際、色を混ぜ合わせて表現した (1)

表-1 カテゴリー別分類

工夫の種類	回答番号
動作の工夫	③④⑤⑥⑧⑩⑫⑬⑭
視覚的な工夫	①②⑦⑨⑪⑯⑰⑱
観客への配慮	⑤⑦⑨⑫
その他	⑮

学生が記述回答したものを書き出すと18項目となった。書き出したものを工夫の種類別に「動作の工夫」「視覚的な工夫」「観客への配慮」として3つのカテゴリーに分類した(表-1)。観客の前でオペレッタを行ったことがない学生たちではあるが、制作・練習段階から観客の視点に立って行動していることがわかる。また、その他で取り上げた⑮は、廃材などを持ち寄って制作を行ったことが次回再演時に役立つと解釈しており、オペレッタを学ぶことが今後後輩たちにも引き継がれることを予測している。

質問5は自分が積極的に関わることができたと思う

ことについての回答を得た。

- ① 案を提案できた、意見を言えた (複数回答)
- ② 草の絵
- ③ 果物の絵
- ④ 招待状の絵
- ⑤ 羽を作った
- ⑥ あおむしの絵を描いた
- ⑦ ちょうちょの羽を制作した
- ⑧ あおむしの役に立候補した
- ⑨ 歌詞を覚えて大きくはっきり歌う
- ⑩ 自分のパートの動きを工夫した

参加者10人全員がそれぞれ違う回答であった。制作の場面ではファシリテーターとしてそれぞれに役割を割り振った。集団活動で陥りやすい「人任せ」を避けるために、学生に無理がなくできると思われる役割を任せると、自然と下絵を描く者、色を塗る者、全体を見て濃淡の指示を出す者など、友達の良さを活かしながら自分たちで役割を細分化し、チームワークを発揮していた。また、役割がはっきりしていることで制作を見守るファシリテーターは各々の工夫、貢献を適格に褒めることができるという利点も生まれた。

質問6は楽しい、またはやりがいを感じたことについて回答を得た。回答全体を見渡すと3つのカテゴリーに分類できた。1つ目は発表を終えて、2つ目は練習過程、3つ目は自分自身の役についてであった(図5)。

発表後

・発表がミスなく成功した

練習過程

- ・みんなで声を出して歌う
- ・みんな一致団結している
- ・1つのことをみんなでやったこと
- ・みんなで動くふりつけ
- ・順番に台紙を上にあげながら歌う
- ・少しずつ仕上がっていく過程
- ・みんなでより良くなるように考えているとき

役割

- ・打楽器を担当した
- ・ソロパート

図-5 質問6の回答

やりがいや楽しさを感じることで、観客に暖かい拍手をいただいた発表後の成功体験や、任されたソロパートをやり遂げた満足感は予想されたが、多くの学生が練習過程を挙げたことは予想に反して嬉しい反応であった。今回調査対象にした学生は、集団で何かを創作する経験が少ない。次の質問7で尋ねるが、集団で作業する中で嫌だと感じることも多々ある中で、6割の学生が「みんなで～」とみんなで創り上げていくことにやりがいや楽しみを見出してくれたことは指導者として大きな喜びであり、協働を学ぶ上で学生時代のこのような経験が重要であることを感じた。

質問7は嫌だと感じたことについて回答を得た。

- ① 朝起きられず欠席した
- ② 意見が出なくて沈黙が続く
- ③ 真面目にやらない人がいた
- ④ 男子が少なく、欠席されると自分一人になる
- ⑤ 一体感がない
- ⑥ 集合が悪い
- ⑦ 意見が出ないと変な空気が流れる
- ⑧ 特になし (3名)

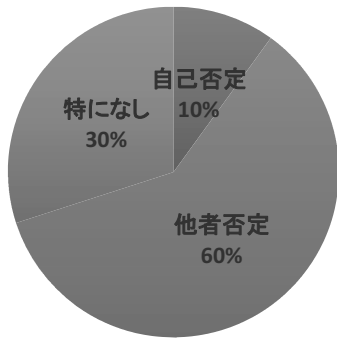


図-6 質問7の内訳

一般的に集団で協働を行う際に嫌だと感じる要因は他者に対して感じる要因が多い。しかし学生の回答を見ると、自分の行為が他者に迷惑をかけたと記述した学生と特になしと回答した学生がいたことに注目したい。自己の行為が迷惑をかけたと認めることのできる学生は今後、自己改革ができる可能性を感じられる。また、「特になし」と回答した学生は、何かを感じているにも関わらず特になしと回答したと仮定すると、若者社会特有の「やさしさ社会」⁹⁾を垣間見るようで指導側の適切な対応で導いていくことが今後の課題だと感じた。

質問8は特に観てほしいポイントについての記述を回答数の多い順に書き出した。文末の数字は回答数を示す。

- ① 可愛い振付 (3)
- ② 壁面など絵 (2)
- ③ リズム感のある振付 (1)
- ④ ちょうちょになるところ (1)
- ⑤ 果物を食べる時の工夫 (1)
- ⑥ 歌声 (1)
- ⑦ マラカス (1)
- ⑧ 緊張しているところも含めて全て (1)

質問5の回答に見られたように、各々責任をもって取り組んだことを鑑賞のポイントに挙げていた。オペレッタの性質上、歌・振付・動作・舞台背景(絵)に意識をもった点は評価すべき点であった。また、今回

参加した学生はほぼ全員が初挑戦だったので⑧の回答のように「初めてのことなので緊張しているところをふくめ、全部見てほしいです」(学生記述原文)という意見は、今回の試みの真髄を心得た回答であった。

質問9は実際に人前で発表した反省、感想について観客の前で発表した直後に記入を行った。以下に学生の記述内容を忠実に記載した。(下線は筆者)

- ① 本番は緊張して声が出なかった。
- ② 今日はとてもいいオペレッタになったと思う。もう少し声が出ればもっと良かった。
- ③ 緊張したけど笑顔でできて良かった。
- ④ 緊張したが声は頑張って出した。(観客に)良い印象だったので嬉しかった。
- ⑤ 緊張せずに楽しくできた。そして今までで一番良いのが出来たと思う。
- ⑥ 声が思ったより出なかった。意外と緊張した。
- ⑦ すごく照れたから見栄えは良くないかと思ったが、先生たち(観客)が良かったと言ってくれて良かった。
- ⑧ 練習の時と違い失敗できない緊張感があった。自分では練習通りでき満足。機会があればまたやってみたい。
- ⑨ 最初は全然ダメだったが次第にみんなの息が合っていくのが分かった。本番では先生(観客)の評価が思っていたより良くて嬉しかった。この経験を次に活かしたい。
- ⑩ 思っていたより緊張した。今回のことを活かして頑張りたい。

言葉で表現することが苦手な学生もいるが、下線で示したように8割の学生は「良かった」「嬉しかった」「一番良いものが出来た」と記述している。このように緊張しながらもやり遂げ、そこに他者からの良い評価が加わることで「次もやってみよう」という自己肯定感が生まれたことがわかる。幼児教育で大切といわ

れる「褒める」ことは大学生にも自己肯定感や、認めてくれた他者や協働者に対する他者信頼感を芽生えさせるきっかけになると考えている。自己肯定感や他者信頼感は、自分はやれるという気持ちを育み、今後直面するかもしれない壁を乗り越える力になると期待されている。

4 アクティブ・ラーニングを踏まえた授業デザイン

4.1 アクティブ・ラーニング導入の経緯

アクティブ・ラーニングが大学教育界で関心を集め始めて数年経つ。今やこの言葉を知らない者はいないであろう。2012年8月に中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」⁷⁾の中で、アクティブ・ラーニングがはじめて明示化された。さらに2014年11月、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」⁸⁾を受け、アクティブ・ラーニングの視点から「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの学びが提言されている。それにより、生きて働く知識・技能の習得など新しい時代に求められる資質・能力の育成を掲げられた⁹⁾。初等中等教育で質的転換を図り、社会に開かれた教育課程の実現を目指すならば、高等教育である大学こそ学びの質を深め、学びを人生や社会に生かすために質的転換が必要である。学びに向かう力・人間性の涵養を念頭に、アクティブ・ラーニングの効果的導入は大学教育の喫緊の課題であるといえる。

4.2 表現活動とアクティブ・ラーニング

保育者養成校における表現活動(音楽・造形・身体)は体を使った活動だからこそ、ただ楽しかったに陥りやすい。幼児教育の現場で活躍できる人材育成のために、「遊び=活動・経験」を学びに変換し、どのような学びが社会に活かせるのかを踏まえた授業デザインが必要であると考えている。

今回の学生主体によるオペレッタ制作過程に織り込んだアクティブ・ラーニングの工夫を次に示す。

- ① オペレッタ導入について目的、概要、ゴールを示す

効果: 最終ゴールを「発表会」に設定したことで、あと何回でという目標が立つ

- ② 毎回授業の最初に、本時にどこまで進めたいか目標を立てる

効果: 毎時の目標を立てることで作業効率が上がる

- ③ 意見を求める際、全員に向けてよりペアで話し合った後全体に返す

効果: いきなり自分の意見が出せない時も、近くの人と相談することで意見が出しやすくなる

- ④ 目的のひとつに「子どもたちに観てもらえる作品」と設定した

効果: 子どもが真似してはいけない動作(食べ物をポイ捨てる等)を避けるアイデアが生まれた

- ⑤ 制作の大まかな役割をグループごとに提案

効果: 下絵、色付け、切り取りなど学生同士で細かく分業し始めた(写真-1)

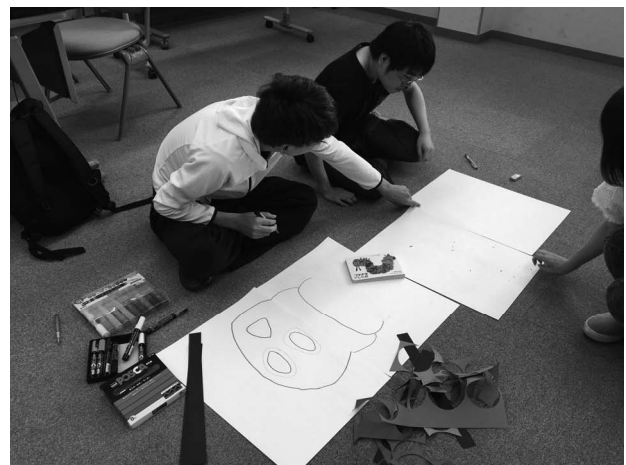


写真-1 作業を分担し進めている

⑥ 練習過程をビデオで観る

効果：個人的に注意しなくても留意点を伝えただけで、
各々の動きが改善された

⑦ 発表会に向け集客について考える

効果：大勢に来てもらう自信はないが、それぞれが手
作りの招待状を配ることでモチベーションを
上げる (図-7)

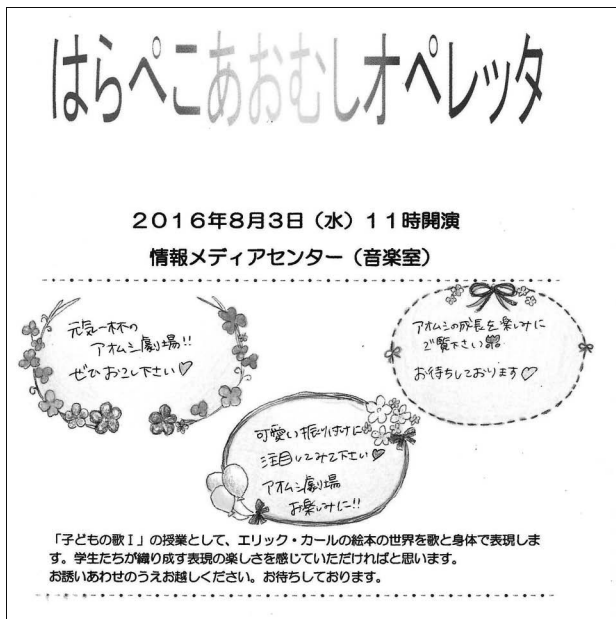


図-7 学生による手書きのメッセージを添えた

⑧ 舞台背景について話し合う

効果：絵本のオペレッタなので絵本の世界をイメージ
できるように、表紙の絵を大きく再現するアイ
ディアが生まれた (写真-2、3)

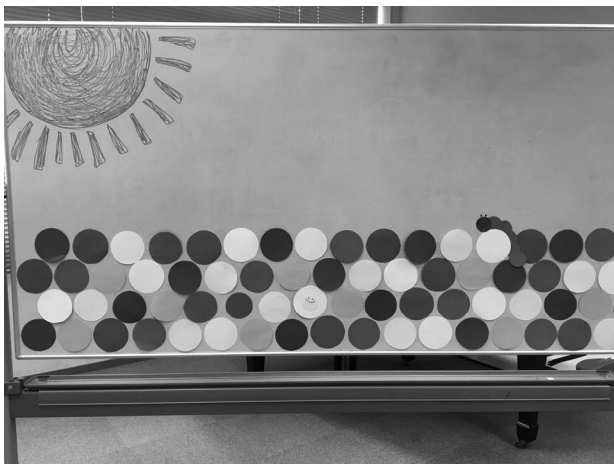


写真-2 絵本の表紙を模倣し絵本の世界観を出す



写真-3 立体感のあるあおむし



写真-4 各々が演じた食べ物を手に全出演者^{註1}

5 おわりに

本研究は音楽表現活動を通して、学生たちの学びの
実践記録から見えてくる若者像や、今後の学校教育に
求められている学修方法を考慮することで深まる学び
について考察した。教育界に旋風を巻き起こしたアク
ティブ・ラーニングであるが、活動を通して友達と意
見を交わしながら課題を発見し、発表し合い、学びを
深めていく学修方法は昔から幼児教育、初等教育では
見られた。座学で学びを深めることも時として必要な
ことではあるが、時代とともに家族の在り方、子ども
の発達や在り方も変化してきた。そのような情勢も考
慮し、指導者が良きファシリテーターとなる工夫をす
ることが必要な時代がやってきたように感じる。我々

大学教員が学んできた学び方が全てではなく、時代や子どもたちが変化していくように、指導者も常に新しい挑戦をしていくことが喫緊の課題であると考える。

[註]

註 1 参加学生には授業内容及び顔写真が掲載されることについて事前に承諾を得た。

[引用文献]

- 1) 保育士養成課程等検討会；保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)，厚生労働省，2010，7
- 2) 文部科学省；幼稚園教育要領解説，文部科学省，2008，158
- 3) 厚生労働省；保育所保育指針解説書，厚生労働省，2008，202
- 4) いっしょに歌おう！エリック・カール絵本うた，株式会社コンサル，2007
- 5) 吉田泰輔，内野允子，浅井香織；オペレッタ(ニューグローブ世界音楽辞典3) 講談社，1993，553
- 6) 森真一；ほんとはこわい「やさしさ社会」，筑摩書房，2008
- 7) 中央教育審議会；新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～，文部科学省，2012
- 8) 中央教育審議会；初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)，文部科学省，2014
- 9) 教育課程部会；次期学習指導要領等に関するこれまでの審議のまとめ 補足資料，文部科学省，2016

[参考文献]

- ・溝上慎一；アクティブ・ラーニングと教授学習パラダイムの転換，東信堂，2014
- ・エリック＝カール，もりひさし(訳)；はらぺこあおむし，偕成社，1976

**Leaning Obtained From Music Representation Activity in Nursery Training
Institution
-From Active Learning to Cooperation-**

Madoka KONEGAWA

abstract : This study focuses on independence and cooperation obtained from other than music representation activity. This study used a making process of operetta as a material for a consideration of cooperation. We had class with an active learning in order to enhance student's independence and cooperation. And, we researched and analyzed student's consciousness through making process of operetta. We considered cooperation obtained from a music representation activity, and we report the result.

はらぺこあおむしオペレッタを振り返って

学籍番号()名前()

希望取得資格(保育士 ・ 幼稚園教諭 ・ 社会福祉士)

希望職種 ()

1、今までにオペレッタを観たことがあるか	ある	ない
2、今までにオペレッタをやったことがあるか	ある	ない
3、絵本のお話を歌、動き、小道具で表現することについてどう思うか		
4、今回はらぺこあおむしオペレッタを経験して、全体を通して工夫したと思う点を、理由を挙げて5つ以上述べよ		
5、自分が積極的に関われたと思うことを、理由を挙げて述べよ		
6、楽しい、またはやりがいを感じたこと		
7、嫌だと感じたこと		
8、観てくれる人に、特に観てほしいポイント		
9、実際に人前で発表した反省、感想(8月3日に記入)		